

株主通信

第121期 中間報告書
2017.4.1 >>>>> 2017.9.30

CONTENTS

- ▶ 1 ひと目でわかる東洋鋼鋳
- ▶ 2 トップインタビュー
- ▶ 5 特集
- ▶ 7 当中間期のポイント／セグメント情報
- ▶ 8 連結財務諸表
- ▶ 9 CLOSE UP
- ▶ 10 会社概要／株式の状況

缶用材料



食缶・インキ缶(ぶりき)

- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール

- ニッケルめっき鋼板
- 電気亜鉛めっき鋼板
- 冷延鋼板

リチウムイオン電池
(ニッケルトップ)

電気・電子部品材料 自動車・産業機械部品材料



建築・家電用材料



ユニットバス壁材(ビニトップ)

- 樹脂化粧鋼板
- 銀鏡めっき金属板



日本で民間初の
ぶりきメーカー

ひと目でわかる東洋鋼鈹

鉄から広がる 鉄無限大“∞”

当社の製品は私たちのくらしの身近なところで活躍しています。
“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈹はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。

機能材料

- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム

液晶テレビ、
スマートフォン向けフィルム
(光学用機能フィルム)



機械関連

- 自動車用プレス金型
- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 硬質合金

自動車ボディサイドの金型
(自動車用プレス金型)





代表取締役社長

隅田博彦

第121期中間報告書をお届けするにあたり、
代表取締役社長 隅田博彦へのインタビューを通して
当社グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

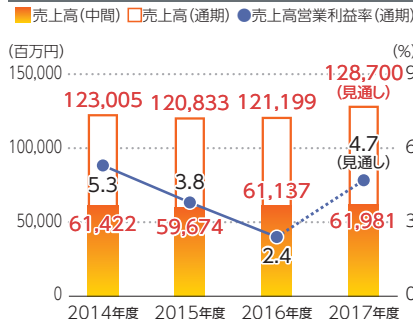
業績は着実に回復。 課題を解決し、 さらなる業績向上を目指します。

Q 当中間期の経営成績についてご解説ください。

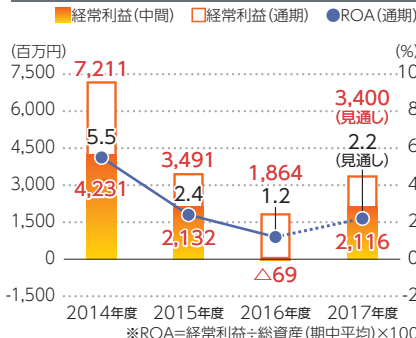
A 前年同期に比べ、
増収増益となりました。

鉄鋼業界では、自動車向けを中心とした内需が堅調に推移しましたが、中国における粗鋼の過剰生産による鋼材需給緩和の懸念が残りました。このような環境下、当社グループの当中間期の連結業績は、売上高619億81百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益27億63百万円(前年同期比418.5%増)、経常利益21億16百万円(前年同期は経常損失69百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益7億14百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失6億45百万円)となりました。

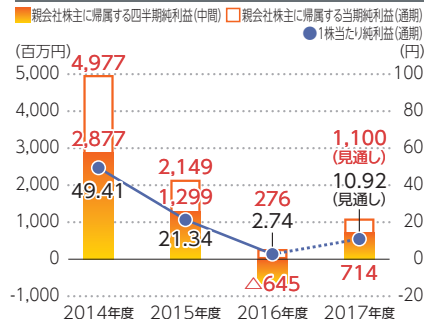
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／ROA



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益／1株当たり純利益



鋼板関連事業は、飲料缶材の販売数量が減少したものの、車載用電池材やベアリングシール材の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収増益となりました。機能材料関連事業は、光学用機能フィルムの販売が低迷したものの、磁気ディスク用アルミ基板におけるデータセンター向けハードディスク用途の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収増益となりました。また、機械関連事業は、自動車用プレス金型の出荷の一部が第3四半期以降にずれ込んだ影響などにより減収となりましたが、費用の減少など



により、前年同期に比べ営業損失は減少しました。

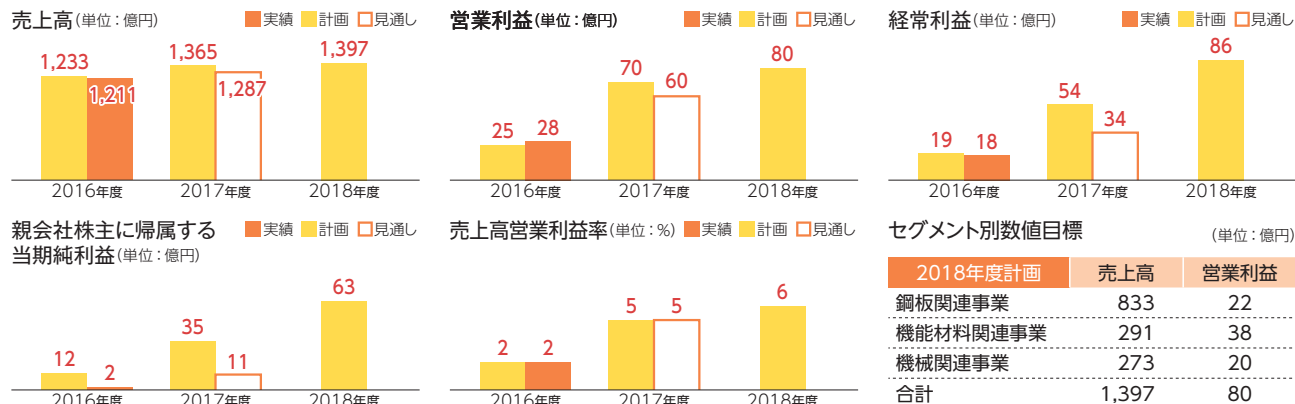
Q 中期経営計画の進捗と通期の業績予想についてお聞かせください。

A 収益性が向上し、
経営基盤は強化されています。

中期経営計画「TK WORKS 2018」で掲げる既存事業の収益性の改善と経営基盤の強化は着実に前進しています。主力の鋼板関連事業においては、電気自動車の普及が進むなか、車載用電池材として使用されるニッケルめっき鋼板の需要の拡大が期待されております。さらに自動車・産業機械部材、建築部材などで使用される電気亜鉛めっき鋼板の需要も堅調に伸びており、鋼板関連事業全体として今後も販売数量の増加を見込んでおります。

機能材料関連事業では、磁気ディスク用アルミ基板の需要が第2四半期から伸び悩んだことは想定外でしたが、中期的には依然として成長分野であると捉えており、安定した生産体制の構築と競争力の高い製品作りに取り組んでまいります。

TK WORKS 2018 3ヶ年損益目標(連結)



機械関連事業では、自動車用プレス金型の販売、生産の両面での立て直しが課題となっております。富士テクニカ宮津社は、本年10月からの新経営体制の下、品質および生産性の向上とさらなるコストダウンに取り組んでいるところです。

新規事業としては、昨年12月に薬事承認を受けたDNAチップキットの上市に向けて準備を進めております。今後は、研究開発を一層加速させ、チップの活用方法を拡大してまいります。

また、トルコの合弁会社トスヤル トーヨー社は、本年5月にオスマニエ工場での商業生産を開始し、その後、順調に生産を伸ばしております。本年度は、計画していた稼働率3割をやや上回って推移していくと見込んでおり、2018年度後半には稼働率8～9割となるように取り組んでまいります。トルコ国内をはじめ、南ヨーロッパ、中東、アフリカなどへの販路を拡大するとともに、安定した生産体制を構築し、需要家の期待に応える高品質な製品を市場に提供することで、事業の拡大を図ってまいります。

なお、通期の連結業績は、売上高1,287億円(前期比6.2%増)、営業利益60億円(前期比108.6%増)、経常利益34億円

(前期比82.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11億円(前期比298.2%増)となる見通しです。

Q 株主の皆さまにメッセージをお願いします。

A 中期経営計画に掲げる諸施策を着実に実行してまいります。

前年同期に比べ業績は着実に回復しております。引き続き、中期経営計画「TK WORKS 2018」に掲げる諸施策に取り組むことで、収益目標の達成を目指してまいります。また、従業員の働き方改革にも積極的に取り組んでまいります。従業員一人ひとりの生産性を高めるとともに、多様な働き方を推進し、職場環境を整備していくことで、健康経営、そしてダイバーシティ経営を実践してまいります。

なお、当中間期の配当金は予定通り1株当たり5円とさせていただきます。期末配当金も1株当たり5円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TK WORKS 2018

推進項目

鋼板関連事業

- トスヤル トーヨー社の確実な立ち上げと早期収益確保
- 原材料コストダウン、製造原価低減活動の強化
- 競争力のある表面処理製品の世界市場投入
- 車載用二次電池需要増に対応した生産能力増強

機械関連事業

- 海外展開を中心とした機器事業の拡大
- 富士テクニカ宮津社とのシナジー実現

機能材料関連事業

【磁気ディスク事業】

- 独自技術開発による品質優位性の確立
- 生産プロセスの改善によるコストダウン推進

【フィルム事業】

- コスト競争力向上によるシェア拡大
- 現場改善活動による生産体制強化

新規事業

- DNAチップ事業の早期事業化

トルコ オスマニエ工場の 操業を開始いたしました。

当社は、2012年に鋼板事業のグローバル展開を加速させることを目的として、近年、経済成長が著しいトルコにおいて、現地企業であるトサル・ホールディング社との合併会社トサル トーヨー社(以下、「同社」)を設立いたしました。そして、同社による約2年間の市場調査・事業性調査などを経て、2014年より鋼板工場の建設に着手し、本年4月には全ラインの試運転を完了させ、5月より商業生産を開始いたしました。

同社の最新鋭の設備と当社の技術力の強みが活かされた製品への需要家の関心は高く、トルコ国内および周辺国の旺盛な需要にも後押しされて販売数量は順調に伸びています。今後は、生産性・品質の向上を図るとともに営業活動の強化に一層努めることで、早期の収益確保に向けて事業を推進してまいります。

■会社概要

TOSYALI TOYO CELIK ANONIM SIRKETI (トサル トーヨー社)

- 所在地** 本社：トルコ共和国
イスタンブール市
工場：オスマニエ県
- 代表者** フアット・トサル
(トサル・ホールディング社長)
- 設立** 2012年4月
- 事業内容** 冷延鋼板および
表面処理鋼板の製造販売
- 従業員数** 約700名
- 出資比率** 東洋鋼板49%
トサル・ホールディング社51%

工場
建設の
様子



2015年4月



2015年12月



2016年4月



2017年2月



設備のご紹介

酸洗・5基連続冷間圧延一貫ライン(PL-TCM)

PL-TCMはぶりき、冷延鋼板、溶融亜鉛めっき鋼板、カラー鋼板の材料であるホットコイルを酸洗圧延するラインです。ホットコイル表面のスケール(酸化鉄)を除去し、お客様からのご要望に合わせて0.16mm～2.0mmまでの板厚に圧延します。



溶融亜鉛めっきライン(CGL)

PL-TCMで圧延されたコイルは直接CGLへ運ばれます。CGLは様々な工程を連続で行うラインです。コイル表面に付着した圧延油を脱脂するためのクリーニング、機械的性質を決める焼鈍、耐食性を確保するための亜鉛めっき、調質圧延、後処理を連続で行います。

赴任者からのコメント

私は品質管理を担当しています。初めての海外赴任ということもあり、言葉の壁や生活環境などの違いに戸惑い、苦戦しながらも日々業務に取り組んでいます。今後も現地メンバーと協力しながら一つずつ課題を解決することで、お客様に喜んでいただける製品を提供してまいります。



(40代男性・品質管理)

私はぶりきのヨーロッパ向けの輸出を担当しています。最初は商習慣の違いによる社内衝突もありましたが、実際に現地のやり方を試してみると新しい気付きも多くありました。初成約の喜びを忘れず、一件ずつ受注を積み重ねてまいります。



(30代男性・営業)

TOPIC

「TK WORKS フェスティバル2017」を開催いたしました。

10月14日、当社下松事業所において一般開放イベント「TK WORKS フェスティバル2017」を開催いたしました。当日は当社グループのショールームや工場見学ツアー、小学生を対象としたクイズ大会、科学体験コーナー、マジックショーなど様々な企画を設け、約2,000人の方にご来場いただきました。地域の皆さまや従業員のご家族に当社グループについて理解を深めていただく良い機会となりました。



当中間期のポイント

POINT

- ▶ **売上高** 61,981 百万円
(前年同期比 1.4%増)
- ▶ **営業利益** 2,763 百万円
(前年同期比 418.5%増)
- ▶ **経常利益** 2,116 百万円
(前年同期は経常損失 69百万円)
- ▶ **親会社株主に帰属する四半期純利益** 714 百万円
(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失 645百万円)

POINT 1

売上高は、機能材料関連事業の販売数量の増加などにより、前年同期に比べ増加。

POINT 2

営業利益、経常利益は、売上高の増加や在庫評価益が増加したことなどにより、前年同期に比べ増加。

POINT 3

親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損失の計上があったものの、経常利益の増加に伴い、前年同期に比べ増加。

セグメント情報

SEGMENT INFORMATION

鋼板関連事業

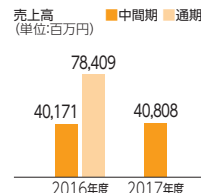


事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

- 缶用材料は、缶コーヒー用途の飲料缶材の販売数量が減少したことなどにより、前年同期に比べ減収。
- 電気・電子部品向けは、車載用電池用途の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収。
- 自動車・産業機械部品向けは、ベアリングシール用途の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収。
- 建築・家電向けは、ユニットバス用内装材の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収。

事業の概況



機能材料関連事業

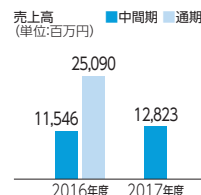


事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

- 磁気ディスク用アルミ基板は、データセンター向けハードディスク用途の販売数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ増収。
- 光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ関連市場における競争の激化に伴い販売が低調に推移したことなどにより、前年同期に比べ減収。

事業の概況



機械関連事業

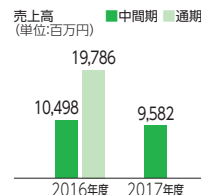


事業内容

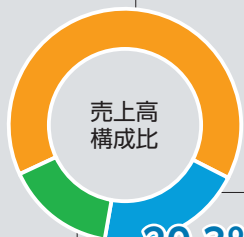
自動車用プレス金型、梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

- 自動車用プレス金型は、売上案件の出荷の一部が第3四半期にずれ込んだことなどにより、前年同期に比べ減収。
- 梱包資材用帯鋼は、需要が堅調に推移したことにより、前年同期に比べ増収。
- 機械器具は、装置本体の販売は堅調に推移したものの、設備工事の受注が減少したことなどにより、前年同期に比べ減収。
- 硬質合金は、射出成形機部品の販売が好調に推移したことなどにより、前年同期に比べ増収。

事業の概況



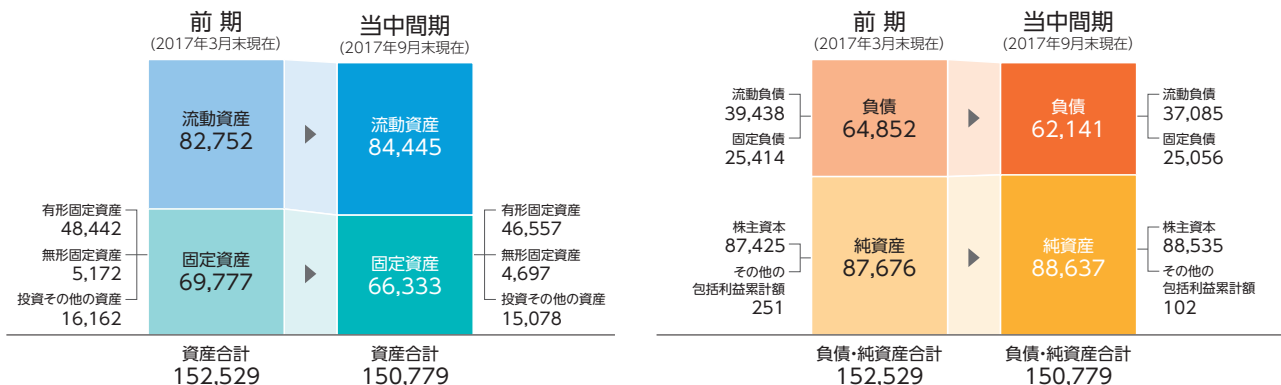
64.5%
40,808百万円



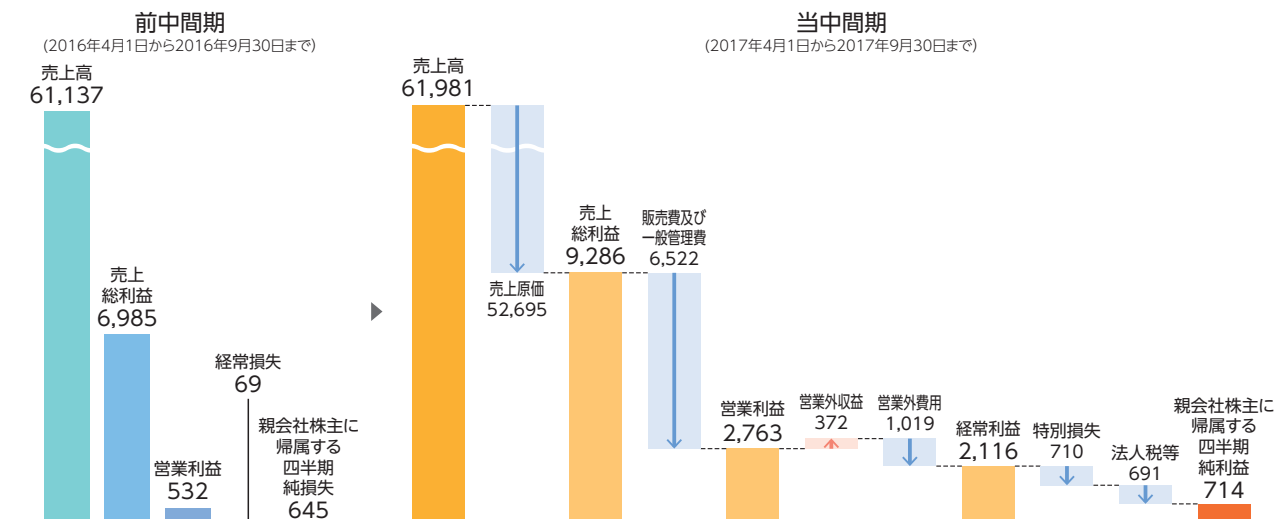
15.2%
9,582百万円

※各セグメントの売上高はセグメント間の取引による金額を含んでおります。

財務状況 (単位: 百万円)



経営成績 (単位: 百万円)



CLOSE UP

クラッド材

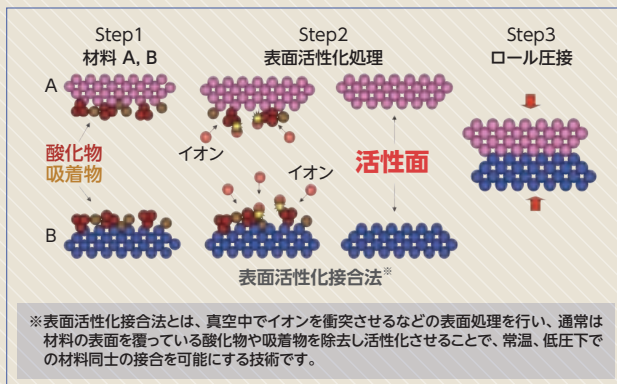
クラッド材
とは？

様々な工業分野において使用されているクラッド材は、異種金属を接合することにより、単体の素材にはない材料特性を得られることが特徴です。

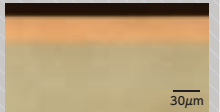
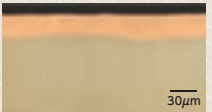
当社のクラッド材 ▶ 「ファインクラッド」

当社のクラッド材である「ファインクラッド」は、「表面活性化接合法[※]」という常温接合技術を用いており、真空中で常温、低圧下圧接によって製造されます。熱や加工応力による材料への影響が少なく、従来のクラッド材では適用困難な新しいアプリケーションへの適用が可能となり、二次電池部材やプリント基板などに採用されてきました。現在は新たに電子機器向け材料の開発をすすめており、将来は最先端技術が必要とされるようなエネルギー分野などへ展開を目指しています。

■ファインクラッドの接合の原理

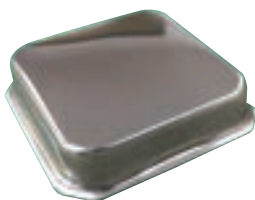


■ファインクラッドと従来クラッドの比較

項目	ファインクラッド	従来クラッド
断面写真		
接合界面の平坦性	良好	うねり(板厚比率変動)あり
接合界面の合金形成	なし	あり
箔材の接合	容易	困難
素材の厚み減少率	0.1~5%	30~70%
素材特性	変化しない	変化する(加工硬化等)

ステンレス/アルミ クラッド材のご紹介

▼スマートフォン筐体



▲ステンレス/アルミ
クラッド材加工例

スマートフォンなどの高性能電子機器の分野や自動車などの輸送機器の分野で使われる材料には、強度だけでなく、軽量性や放熱性も求められています。

当社は、ステンレスの強度とアルミニウムの軽量性や放熱性に加え、高い成形加工性も兼ね備えた新しい軽量クラッド材を開発しました。

本製品はスマートフォンの筐体材料として使用されており、今後さらなる採用拡大を目指します。

会社概要／株式の状況

(2017年9月30日現在)

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
本社 東京都千代田区四番町2番地12
設立 1934年4月11日
資本金 50億4,000万円
従業員数 2,827名(連結)
事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
下松事業所(山口県下松市)

役員

代表取締役社長	隅田 博彦	社外監査役	生田 章一
取締役専務執行役員	宮地 正文	監査役	大川 邦夫
取締役常務執行役員	田辺 敏幸	専務執行役員	辰巳 英之
取締役常務執行役員	森賀 俊典	執行役員	長谷川 浩
取締役常務執行役員	中野 和則	執行役員	塩道 行正
取締役常務執行役員	藤井 孝司	執行役員	大柴 高嗣
社外取締役	林 芳郎	執行役員	清木 和浩
社外取締役	染谷 良	執行役員	中村 琢司
取締役	毎田 知正	執行役員	齋藤 雅宏
常勤監査役	浪岡 貞之	執行役員	荒瀬 真彰
社外監査役	冲中 一郎	執行役員	山本 彰

東洋鋼鋳グループ

連結子会社	株式会社富士テクニカ宮津 鋼鋳商事株式会社 鋼鋳工業株式会社 KYテクノロジー株式会社 TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
持分法適用関連会社	TOSYALI TOYO CELIK ANONIM SIRKETI (トルコ) PT. FUJI TECHNICA INDONESIA(インドネシア)
非連結子会社	12社
関連会社	5社

株式の状況

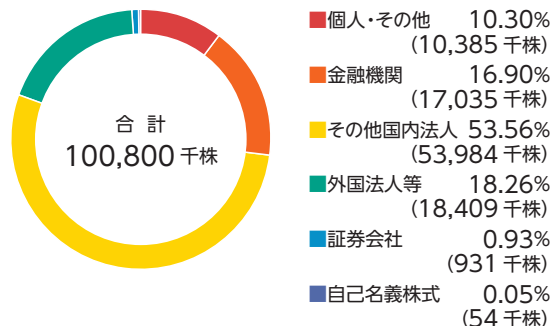
発行可能株式総数 403,200,000株
発行済株式の総数 100,800,000株
株主数 3,803名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐グループホールディングス株式会社	47,885	47.53
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,923	2.90
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	2,378	2.36
公益財団法人東洋食品研究所	2,055	2.04
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,008	1.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,709	1.70
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
GOVERNMENT OF NORWAY	1,330	1.32
株式会社山口銀行	1,316	1.31

(注)1. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。
2. 千株未満は切り捨て、小数点以下第3位は四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



(注)千株未満は切り捨て、小数点以下第3位は四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネット) (ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お問合せ

証券口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
特別口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL tkworks.jp



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鋳」をはじめ、投資家の皆さま向けのIR情報など、さまざまな情報を掲載しております。

tkworks.jp

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html>